

光を北方から

令和7年度学校だより第1号

<発行責任者>

北海道旭川盲学校

校長 野本 雅明

令和7年4月25日

子どもたちの生命(いのち)が輝き、明るい未来を築くために

北海道旭川盲学校長 野本 雅明

4月も後半となり、北の街、ここ旭川も大分春めいてまいりました。もう少しすると田んぼにも水が張られ、田植えに向けた準備も始まることでしょう。暖かな日差しをうけ、小さな緑の苗が整然と並ぶ田んぼの様子は春の風物詩でもあり、私も大好きな風景であります。トラクターが忙しく田畑を動き回り、その上を雲雀(ヒバリ)がさえずり・・「歓喜の春」の訪れもあともう少しです。

旭川盲学校もまた、新たな春を迎えております。4月8日(火)には入学式、始業式が行われ、令和7年度の学校生活がスタートしました。今年度は幼稚部に1名、小学部に1名、中学部に1名と、3名の新入生を迎え、全校幼児・児童・生徒13名でスタートしております。私のいる校長室からも、教室で学ぶ子どもたちの元気な声が聞こえ、先生方の声、保護者の声がそれに続き、たくさんの笑い声があちこちから沸き起こるにぎやかな学校風景となっております。人それぞれ、好ましく感じる光景や音というものがあるかと思いますが、子どもたちが楽しそうに活動し、互いに笑い合う様子もまた、私の大好きな光景であります。これからの未来をつくっていく子どもたちが伸び伸びと学び、仲間と楽しそうに笑い合う姿からは、子どもたちのもつ「生命(いのち)の輝き」や「明るい未来」が連想され、心を豊かにするものとなっています。学校は、いついかなる時も子どもたちにとって安全で、安心な場所であり、落ち着いた環境の中で、子どもたちが学びに集中できる場であると考えます。子どもたちの笑い声が響き、仲間と共に目を輝かせて学習に取り組む、そんな光景がいつまでも続く学校でありたいと思います。

さて、今年度、旭川盲学校では、学校教育目標を見直し、子どもを主体とした「自ら学び、考えを深め広げ、自らの人生を切り拓いていく子ども」と目標を改訂しております。そして、学校教育目標を実現するためのキーワードとして、『4つのC』を掲げました。①Challenge(チャレンジ:挑戦・主体性)②Collaborate(コラボレート:協働性・協調性)③Communicate(コミュニケート:意思の疎通・情報伝達)④Create(クリエイト:創造性)の4つのとなります。全教育活動を通じて、この4つの力の育成を目指し、子どもたちの教育に取り組んでまいります。また、令和7年度の重点目標は、「視覚障害教育の専門性を活かした教科指導、自立活動、生活指導の充実を図り、子どもたちが「わかった」、「できた」を実感できる学びの実現を目指す」としております。1回1回の授業を大切に、学びの中で「できた」「わかった」という子どもたちの気づきを促し、それを実感できる学びの実現を目指してまいります。子どもたちが「知」の喜びを知り、目を輝かせて学びに取り組む学校を、教職員一丸となって目指してまいりたいと思います。子どもたちの生命(いのち)が輝き、明るい未来を築くために……。令和7年度の旭川盲学校もどうぞよろしくお願いいたします。



令和7年度入学式

今年度は、4月8日(火)に幼稚部1名、小学部1名、中学部1名の新生を迎え、入学式が行われました。新生と在校生の保護者の皆様や来賓の方にたくさんの拍手をいただき、とても温かな雰囲気の中で行うことができました。在校生は、歓迎の言葉や「世界中のこどもたちが」を歌って、新生を迎えました。新生も進級した在校生も、早く新しい環境に慣れ、楽しい学校生活を送ってほしいと思います。



幼稚部

今年度の幼稚部は、新生のかわいい1名を迎えて年少(3歳児)うさぎぐみと年長(5歳児)ぱんだぐみとしてスタートしました。

幼稚部の日課にも少しずつ慣れて、幼稚部教室では朝、帰りの会や体操、ストレッチ、自由遊びなどの活動をしたりしています。登下校時に先生方に声を掛けられると、元気に手を振る様子も多く見られるようになりました。お気に入りのおもちゃを見つけていっぱい遊んだりすることができています。



幼稚部では、屋内外でたくさん体を動かしたり、工作・音楽・自然遊びなどを通して様々なものに触れたりしながら、生活に必要な習慣や身の周りの人や環境と関わる力を育てていきたいと思っています。

小学部

今年度の小学部は、新生の1年生1名が入り、2年生2名、3年生1名、4年生1名、6年生1名の6名で新年度をスタートしました。1年生にとっては初めての小学部での学校生活で、ときどき、わくわくの毎日だと思いますが、小学部の時間割に少しずつ慣れて活動する様子が見られました。進級生も新しい教室にもすぐになじみ、元気いっぱいに過ごすことができています。みんなで声を掛け合い助け合いながら、学習したり、楽しく遊んだりしています。新しい先生方と一歩ずつ関係性を築いて、心も身体も成長していったほしいと思います。

笑顔があふれ、楽しい思い出がたくさん残せる1年になるように、子どもたちを支援していきたいと思っています。今年度も、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。



中学部

昨年度1名卒業しましたが、この4月新たに中学生1名を迎え総勢4名となりました。3年生男子2名、女子1名の3人、1年生は男子1名です。3年生は最上級生となり旭川盲学校で過ごす最後の1年となります。楽しみにしていた見学旅行も6月に控え、とても意欲的に学習に取り組んでいます。3年生の学級目標は「中学3年生らしく、みんなのお手本になろう」で、最上級生としての意識が高まっています。1年生は環境も変わり戸惑う場面も見られましたが、徐々に慣れ学習に取り組んでいます。今年度はこの4名、将来的なステージを見通し、生徒が意欲的に学習に取り組み「できた」「わかった」を実感できるよう、教職員力を合わせて支援していきたいと考えています。行事や普段の学習等様々な場面で活躍している生徒の姿を皆様にご覧いただければと思います。

今年度もご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



転入のご挨拶

令和7年4月1日付けにて本校に着任した教職員の挨拶です。

村山 将直(むらやま まさなお)教諭

東川養護学校より転勤してきました村山将直です。中学部1年の担任になりました。30年近く知的障がいの子供達と一緒に勉強してきたので、新たな分野でまた初心に戻って学んでいこうと思います。身体を動かすことが大好きなので、子供達とたくさん運動できることを楽しみにしています。

30年ぶりの英語も頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

金子 雅明(かねこ まさあき)教諭

美唄養護学校から着任いたしました、金子雅明と申します。小学部2組の副担任で、1組の生活の授業を担当します。「子どもから学ぶ!保護者から学ぶ!」。日々、謙虚な姿勢を大切に、お子さんと楽しく関わり合いたいと思います。お子さんの小さな成長を積み重ねていく一助となり、お子さんの成長を共に喜び合ってご家族が幸せになれるように尽力します。どうぞよろしくお願いいたします。

植田 郁子(うえだ いくこ)教諭

はじめまして。北海道深川西高等学校から赴任しました、養護教諭の植田郁子と申します。雨竜高等養護学校での勤務経験はありますが、盲学校での勤務は初めてになります。早く学校に慣れて、幼児児童生徒のみなさんが楽しく安心して毎日を過ごすことができるように、保健室から応援したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

加藤 繕至(かとう よしゆき)寄宿舎指導員

北海道稚内養護学校から着任いたしました寄宿舎指導員の加藤繕至です。幼児児童生徒の皆さんと一緒に寄宿舎で活動をするのを楽しみにしています。1日も早く新しい学校に慣れて、幼児児童生徒のみなさんが安心・安全に楽しく過ごすことができるように頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

白井 邦孝(しらい くにたか)事務長

旭川農業高校より参りました白井と申します。特別支援学校の勤務経験は何校かありましたが、盲学校は初めての勤務となります。学校や寄宿舎の施設設備の管理などが主な業務になりますが、幼児児童生徒のみなさんが安心して学べる教育環境づくりに努めて参りたいと考えております。よろしくお願いいたします。

山口 郁夫(やまぐち いくお)教諭

この度、勤務させていただくことになりました山口郁夫と申します。旭川盲学校での勤務は2回目となります。自分自身がしっかりと学びながら、幼児児童生徒のみなさんの成長のために力を尽くしていきたいと考えております。私の興味のあることは、自然(動物や植物)といろいろな乗り物です。幼児児童生徒のみなさんとも共通の話題にして、楽しく会話ができるのではないかなと今から楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

梅木 幹子(うめき みきこ)教諭

小学部1組の副担任になりました梅木幹子と申します。出身は道東の標津町です。3月まで星槎国際高等学校で働いていました。特別支援学校での勤務は久しぶりになります。子どもたちの小さな「できた!」が積み重なって大きな「自信!」となるように、つかず離れずのサポートをしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

- 「学校だより」は、年4回の発行です。
- 今後も学校の様子は学校ホームページにてお知らせしていく予定です。本校のホームページをご覧ください、ご感想やご意見をいただければと思います。

旭川盲学校ホームページアドレス

<http://www.kyokumo.hokkaido-c.ed.jp/>

子ども相談支援センター

- いじめられて、こまっている
- がっこうにいきたいのに、いけない
- だれかに、きいてほしい

子ども相談支援センターでは、いじめや不登校、性的マイノリティなどに悩む子どもたちや保護者からの相談を受け付けています。

メール相談

sodan-center@hokkaido-c.ed.jp

電話相談

0120-3882-56

